佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
(三井生命ビル4F)
電話 0952(29)1933
FAX 0952(23)5218
HP http://saga-doc.jp
hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料 1部 200円
送料込 年間2,400円
(会員の購読料は会費に含まれています)

医科研究会

インフルエンザウイルス感染症と二次性細菌性肺炎

～診断、最新の治療、合併症、院内感染対策まで～

藤田 次郎 先生

10月30日(水)佐賀市アバンセにて、医科研究会「インフルエンザウイルス感染症と二次性細菌性肺炎～診断、最新の治療、合併症、院内感染対策まで～」を開催いたしました。

講師に、4月にもご講演いただき、大変好評だった藤田次郎先生(琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学教授)をお招きし、22医療機関より35名の参加がありました。

以下、参加者からの報告です。

10月30日(水)アバンセで琉球大学大学院感染症・呼吸器・消化器内科学教授の藤田次郎先生による講演が開催されました。藤田先生には、今年4月にも市中肺炎についてのご講演をしていただき、非常に分かりやすくためになる内容で、今回の講演も、どのような話を聞かせていただけるのか楽しみに参加させていただきました。

インフルエンザの基礎知識から始まり、2009年の新型インフルエンザ流行時において、沖縄での感染経路を詳細に解明された時の話や、院内感染が起こった場合の感染経路の調査、感染拡大の予防、そして終息に至る経過など興味深く拝聴させていただきました。

沖縄では、当時2カ月も早く新型インフルエンザが発生し、感染源はオーストラリア人の観光客と米軍基地兵士であったとの事でした。特に興味深かったのは、重症化の要因です。糖尿病や肥満がある場合は特に危険で、BMIが30以上の場合、ウイルスに対して過剰な免疫反応が起こるため、重症肺炎を併発する危険性が高くなるとの事でした。

それに関連して、沖縄で経験された、インフルエンザウイルス単独による純ウイルス肺炎の患者さんの話もありました。症状出現時に数回のインフルエンザ抗原検査がなされていたが、陰性であったため、抗インフルエンザ薬の投与がなされないまま過剰な免疫反応が起こり、あっという間に重症化に至ったものの、長期にわたる治療の結果生還されたという症例でした。その重症化の要因として肥満があったとの事で、さっそく自院の職員に、風邪の患者さんも肥満傾向がある場合には身長・体重を測定してBMIが計算できるようにと指示をしました。

インフルエンザが流行してきた場合には、高熱などインフルエンザの可能性が否定できないような状況では、抗原検査陰性でもBMIを確認して、早めの抗インフルエンザ薬処方が望ましいと考えさせられました。その他、沖縄では1年中インフルエンザが発生している事や、インフルエンザ感染に対する予防治療の重要性など、ためになる話満載の講演でした。

また、機会があれば藤田先生の講演をお聞きしたいと思いました。

(佐賀市 内科医師)

10月27日(日)、宮崎県高千穂峡への日帰りバスツアーを開催し、会員・家族・スタッフ合わせて32名の参加がありました。

以下、参加者からの報告です。

佐賀から車で片道約3時間かかる高千穂峡には行ったことがなく、今回楽しくてお得な(笑)バス旅行に参加させていただきました。

バス旅行の楽しさはガイドさんのトークと案内です。自分で運転していると景色を見ることができませんが、自分の知らない歴史や周りの風景の見所をピンポイントで案内してもらえ、楽しみが倍増します。

総勢36名(協会事務局含む)で高速道路をひたすら高千穂峡に向けて走ります。車内では、藤戸先生の司会進行でまず参加者の自己紹介を行いました。次は魚の漢字のクイズがあり、鮪(まぐろ)、鰤(ぶり)、鱚(きす)はすぐに正答がありましたが、鯑(数の子)は正答が出ませんでした。他に高千穂牛や宮崎県の木や花の話が面白く勉強になりました。行きの最後はビンゴ大会でした。

今年は、10月でも夏日があり紅葉が遅れていましたが、途中の阿蘇の外輪山を越えるところは一部紅葉が見られました。

バス旅行の第2の楽しみは、美味しい食事と、昼間からアルコールを飲めることです。高千穂牛のほか、地元の野菜を使ったたくさんの料理が出てきました。数名の方と共に私もビールで乾杯しました。

昼食の後は高千穂峡の散策です。水の流れる音を聞きながら約40分かけて遊歩道を歩きました。

「真名井の滝」は日本の滝100選に選ばれているだけあって、壮大でした。森林浴のマイナスイオン効果で日頃の疲れが吹っ飛びました。高千穂神社は夫婦杉、鎮石(しずめいし)で有名です。夫婦杉は大切な人と手をつないで周りを3回まわると幸せになるといわれています。

散策後に立ち寄った神楽酒造トンネルの駅では、トンネルで熟成させた焼酎を試飲しました。

今回はパワースポット巡りができました。保険医協会の皆さんありがとうございました。

(ゴーゴーパパ)

協会会員数

医科	636人
歯科	326人
合計	962人

(10月31日現在)

主な記事

・第159回保団連九州ブロック会議……2面
・2013年保団連審査・指導・監査対策担当者会議……3面
・2013年全国機関紙誌交流会……3面
・保険で良い歯科医療の実現を求める10・27決起集会……3面
・共済部だより「休業保障第3回募集スタート!」……5面

曙

「和食」がユネスコの遺産事業の一つである無形文化遺産に登録された。日本政府は、和食を「『自然の尊重』という日本人の精神を表した、食に関する社会的習慣」として無形文化遺産に提案し、その特徴を「四季や地理的多様性による新鮮な山海の幸」「自然の美しさを表した盛り付け」「正月や田植えなどとの密接な関係」など文化性の高さとした▼さらには、京都の精進料理や懐石料理、東京のすし、東北地方の鍋料理など、北海道から沖縄に至る多様性を紹介。うまみを多く含むだしの使用、みそやしょうゆなどの発酵技術、さしみ包丁など独特な調理道具で食材の持ち味を引き出す工夫、葉や竹、器などで食卓を美しくしつらえる表現方法が発達していることを挙げたという▼日本の食文化が国際的な評価を得たことで、外国人観光客の増加や農水産物の輸出拡大につながる可能性があると経済効果を期待する声も多い。日本人として、「和食」が無形文化遺産に登録されたのは誇らしく喜ばしいと思う反面、現代の一般的な日本人がこのような「和食」を果たしてどれくらい口にしているだろうかと懐疑的な気にもなる▼外国では和食は人気なのに、日本ではコメの消費量は年々減少し、和食離れが進んでいるというのは皮肉なものだ。無形文化遺産登録を契機に私たち日本人こそ、一汁三菜、昔ながらの和食を見直したい。

(キョウチンガーZ)